

夏ノ二表

ろしのごとしと・観へくわんへじて此春のうちに

往生へわうじやうへをとげばやとそ・仏神へぶつじんへに申けるさて

庵へいほりへのまへに・梅花へむめのはなへ・咲へさきへたるをみて過つる人の
さし入てながめければ

こゝろせん・賤へしづへがかきねのむめのはな

よしなくすぐる人とどめけり

出家へしゆつけへのゝちは世中へよのなかへにしばしもあとをとど

めん事をよしなしと思ひてふかき山へ

たうとき處へところへを修行へしゆぎやうへしけり花の比